

平成 29 年度長崎大学がんプロ養成基盤推進プラン離島・僻地医療実習

実習生：鋏尾 智幸

実習先：奈良尾医療センター

実習期間：平成 29 年 10 月 2 日(月)～平成 30 年 1 月 26 日(金)

実習報告：

今回、私は長崎大学がんプロの離島・僻地実習を奈良尾医療センターで行わせていただきました。

奈良尾は長崎の西方沖五島列島の中通島の南東部に位置しています。2004 年 8 月に周辺 4 町と合併し、奈良尾町から新上五島町奈良尾郷となっています。自然が豊かなところで、海も山もあり癒されます。しかし、近年過疎化、少子高齢化が進んでいます。

奈良尾医療センターは、昭和 22 年に奈良尾漁業協同組合奈良尾病院として発足しましたが、過疎化の影響を受け、平成 23 年 4 月に長崎県上五島病院附属診療所奈良尾医療センターと改称し無床診療所となりました。診療所は平成 24 年に山の上から奈良尾港近くに移転しており、CT も稼働しています。新上五島町の中核病院の上五島病院と電子カルテでデータを共有することができ、上五島病院の医師と画像や検査データを共有しながら相談可能です。

我々、腫瘍外科は病院時代から奈良尾医療センターに外科医として、1 週間交代で勤務させていただいておりました。今回はこのつてを利用して、奈良尾医療センターで実習をさせていただくこととなりました。

奈良尾医療センターは、内科、外科、整形外科、小児科、眼科を標榜していますが、常勤医師は林先生一人のみで、内科・小児科を診療され、我々が、外科・整形外科疾患を診療する体制になっております。整形外科、眼科に関しては週一回、上五島病院から専門医師が応援に来ていただいております。また、検診も毎日行っており、上五島病院から応援医師が来院されます。このように、中核病院である上五島病院と連携しながら診療を行っております。

奈良尾医療センターから上五島病院まで車で 40 分と若干遠いため、外来で経過観察するか、上五島病院に入院をお願いするかの判断が少し難しくなってきます。上五島病院も新上五島町全体を診療しなければいけないため、マンパワーが不足しており、経過観察目的での入院を気軽にすることができないという事情もありますが、患者さん自身も経過観察するだけなら自宅で、と希望されることもあります。

そのような悩ましい症例が、1 か月で数例ほどあるのですが、多くは何ごともなく日常生活に戻られているようです。しかし、大事に至ることもあります。その一例をご紹介します。60 代の女性で、右季肋部痛を訴え、来院されました。もともと慢性骨髄性白血病で長崎大学病院や上五島病院にかかっているようですが、病状は内服のみで良好にコントロールされているようです。数か月前から軽度の腹痛を訴えており、上五島病院を 2 か月

前に受診した際に上部消化管内視鏡を行われていましたが、慢性胃炎のみで胃粘膜保護薬を処方されていました（十二指腸に一部見づらいところがあったという報告文に注意すべきでした）。触診では右季肋部が少し硬い印象でした。採血では白血球正常、CRP軽度高値のみでした。腹部CTではfree airなく、イレウスもなく、胆摘後であり、総胆管結石を示唆する所見もありませんでした。当センターに入院施設があれば、入院をおすすめするところでしたが、画像上、データ上明らかな腹痛の原因を示唆する所見が指摘できず、本人と相談し、ソセゴンで腹痛が和らいだこともあり、自宅で経過観察することとしてしまいました。結果的には、その日の夜中、再度腹痛が増悪し、救急車で上五島病院を受診され、十二指腸穿孔の診断で緊急手術となっていました（奈良尾医療センターは夜間診療をしていませんので、夜間の救急はすべて上五島病院を受診することになります）。

離島・僻地の医療では、機関病院に依頼するか、自分で診療し続けるかの線引きをより適切に判断していかなければならないことに、難しさを覚えました。そのために、データに頼るだけでなく、視診、触診、聴診など診察技術も磨いていかなければならないと改めて感じました。

今回お世話になった内科の林先生は、もともと心臓血管外科専門ですが、救急医療もされたり、発展途上国での勤務の経験もあられるなど、オールラウンダーで頼りになります。林先生がおっしゃるには、奈良尾医療センターはCTもあり、車で40分のところに中核病院もあり、先生の働いてきた発展途上国から比べると、かなり恵まれているようです。そのような話を聞いていると、都市部でやる医療を離島・僻地にすべて導入することは不可能なので、その地域でできる限りの医療を提供するしかないのだろうと考えています。地域格差があるのは仕方がない。その地域でできる範囲の医療を提供して、患者さんにどれだけ満足してもらえるかが重要なことだと考えるようになりました。病気を治せるかどうかではなく、患者さんを満足させられるかどうかは医療の本質なのだと感じています。

最後になりましたが、林先生はじめ、奈良尾医療センターのスタッフの皆様、八坂院長をはじめ、上五島病院より応援いただいた先生方に感謝いたします。



奈良尾医療センター外観



奈良尾の名所 アコウの樹



お世話になった林先生と



報告会にて